

桜島の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

昭和火口では、今年 6 月下旬からやや活発な噴火活動が続いており、7 月に入ってから爆発的噴火が 36 回発生しました。このうち 18 日 16 時 08 分と 19 日 00 時 28 分の爆発的噴火では、昭和火口の南東約 3 km に設置している空振計で 100 パスカルを超える空振を観測しました。これらの爆発的噴火では天候不良のため噴石は不明でした。また、19 日 09 時 42 分には 87 パスカルの空振を伴い、大きな噴石が 5 合目まで達する爆発的噴火が発生しました。

これらのことから桜島の噴火活動はさらに活発化するおそれがあると判断し、本日（19 日）11 時 00 分に火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 3（入山規制）に引き上げました。

昭和火口及び南岳山頂火口から 2 km 程度の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。風下側では降灰及び風の影響を受ける噴石（火山れき）に注意が必要です。降雨時には土石流に注意が必要です。

活動概況

・噴火活動状況（図 1、図 2、図 3）

昭和火口では、6 月下旬からやや活発な噴火活動が続いており、7 月に入ってから爆発的噴火が 36 回発生しました。このうち 18 日 16 時 08 分と 19 日 00 時 28 分の爆発的噴火では、昭和火口の南東約 3 km に設置している空振計で 100 パスカルを超える空振を観測しています。なお、噴煙の高さ及び噴石の飛散距離は天候不良のため不明でした。また、19 日 09 時 42 分には 87 パスカルの空振を伴い、大きな噴石が 5 合目まで達する爆発的噴火が発生しました。

・地震及び微動の発生状況（図 3）

7 月上旬頃から、火山灰の噴出に伴う振幅の小さな火山性微動が増加しています。火山性地震は少ない状況が続いています。

・地殻変動の状況（図 4）

有村観測坑道（九州地方整備局大隅河川国道事務所）の傾斜計では、山体の隆起を示す特段の変化は認められていません。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。この資料は気象庁のほか、九州地方整備局大隅河川国道事務所のデータも利用して作成しています。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

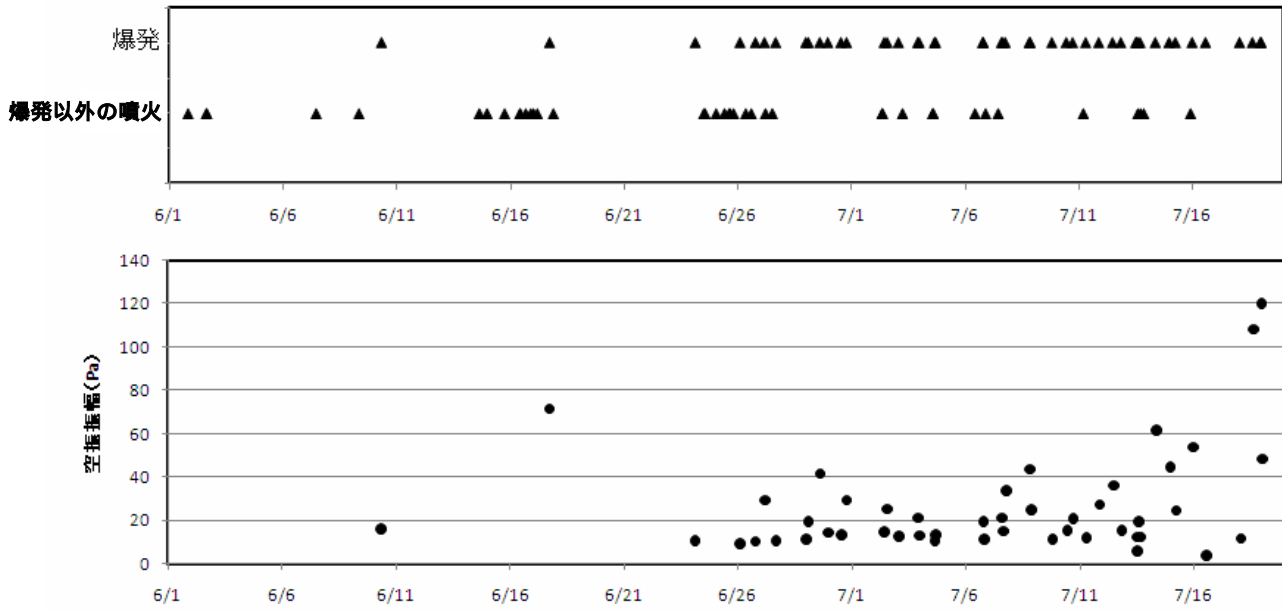


図 1 桜島 最近の昭和火口の噴火及び爆発的噴火の発生状況（上段）及び爆発的噴火に伴う空振振幅の経過（下段）(2009 年 6 月 1 日から 7 月 19 日 09 時)
空振の振幅は昭和火口の南東約 3 km に設置している D 点の振幅。

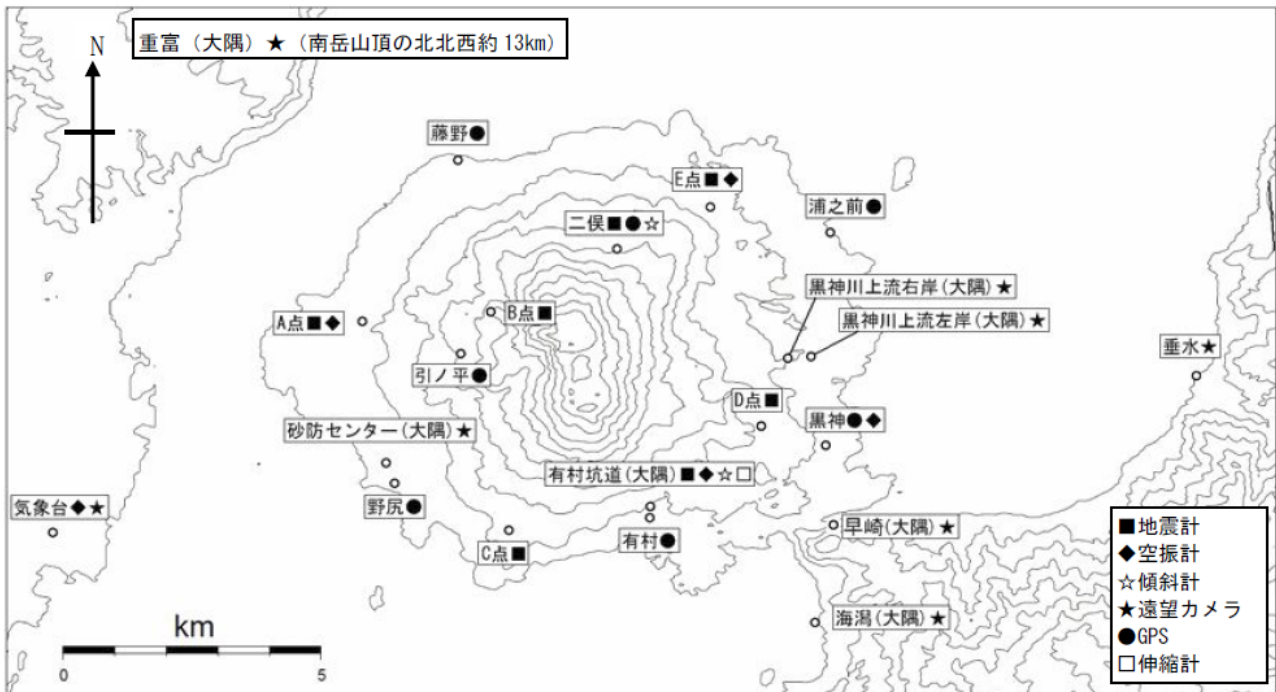


図 2 桜島 観測点配置
(大隅): 大隅河川国道事務所設置

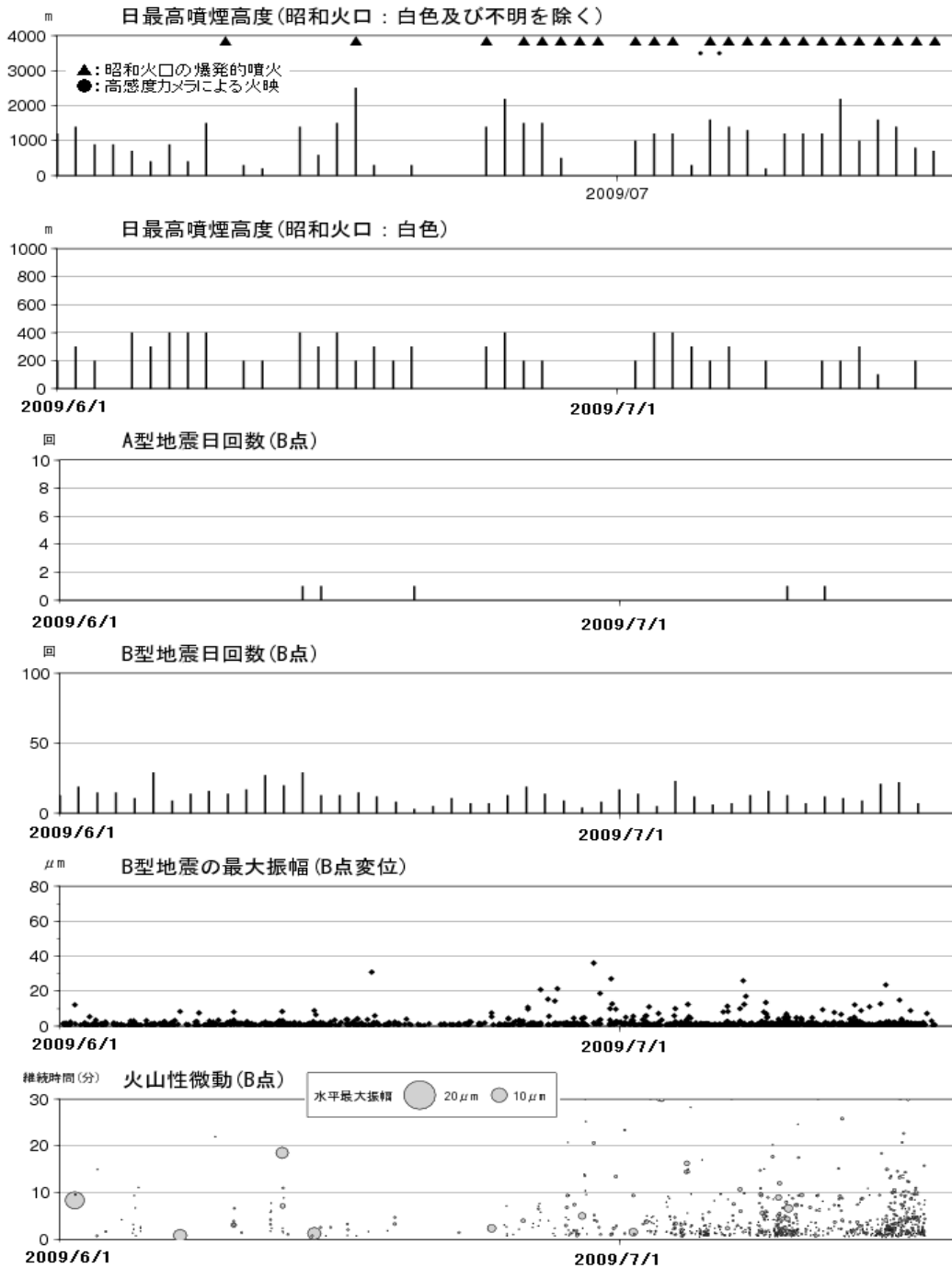


図 3 桜島 最近の活動経過 (2009 年 6 月 1 日 ~ 7 月 18 日)



図 4 桜島 有村観測坑道の水管傾斜計 (大隅河川国道事務所設置) の変化 (2009 年 1 月 ~ 7 月)